

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年五月度 入賞句一覧

投句数 六百二句

特選



名和 永山 選

遠目なる菜の花明り暮れてなほ

福井県敦賀市 山田 美千代

一面の菜の花畑。黄色が眩しく、目に焼きつくほどである。日が暮れ始めたが、「菜の花明り」が遠くまで見えるのである。座五の「暮れてなほ」が、その余韻をうまく表現している。

陽をうけて優雅に円舞クレマチス

大垣市

平野 順一

「クレマチス」は鉄線花のこと。鉄線花には色々の花がある。大きい花や小さい花。代表的なものは紫色だが、中には華やかな白などもある。陽を受けている花びらは、あたかも踊っているかのようである。作者はどんな花を見たのであろうか。季語「クレマチス」は、この円舞している爽やかさ、また、洋風の様子をしっかりと表している。これが「鉄線花」では雰囲気が出せないのである。「クレマチス」だから良いのである。

子とくぐる母校の門や花盛り

大垣市

村瀬 佐智子

小学校の入学式であろう。久々に訪れた母校の入学式に、我が子と満開の桜の咲く門をくぐったのである。この句のポイントは中七の「や」である。単に子どもと花盛りの門をくぐったことを詠っているのではなく、この「や」の切れによつて母校での思い出や、自分も親と一緒に入学式に来たことまで思い出していることと鑑賞できる。「や」の切れは、それほどまでに母校に感嘆していることを意味するのである。

秀逸

新茶汲む雫の香まで絞りきり

海津市

横井 美圭

礎石のみ残る山城余花の雨

養老郡養老町

田中 紫香

草餅を焼くたび餡の飛び出せり

養老郡養老町

山田 順子

正論はいつも生意気花辛夷

東京都世田谷区

関戸 信治

目薬の変わりは持たぬ柿若葉

大垣市

高津 喜久子

春風やトルコレースのカフェの窓

各務原市

桑原 緑

ゆで玉子ツルリと剥けて風光る

大垣市

傍島 隆

洗顔の清しき真水夏に入る

大垣市

田口 貞善

風吹けば風に従ふ花筏

大垣市

柴田 えり子

一村の光となれり鯉のぼり

長野県下伊那郡

長沼 まさし

入選

春立つや別れを告ぐる手垢本

大垣市

吉田 てるみ

堂塔も墨絵と化して春霞

不破郡垂井町

川瀬 慶泉

やわらかき風を包みし柿若葉

大垣市

大角 信華

蛤の殻積まれたる老舗かな

東京都狛江市

椎野 一恵

夜桜に琴の音やさし城下かな

岐阜市

日比野 祥子

雲一朵祭囃子が風に乗り

大垣市

久保田 悟義

介助の手離れ一息はや卯月

大垣市

田中 雅子

青梅や母の手仕事しわ深き

海津市

水谷 勲一

山路きて影まで隠す青葉かな

大垣市

土屋 和馬

空を抱く気高き蘘や鉄線花

養老郡養老町

佐藤 咲楽

往く春や付箋の多き旅雑誌

静岡県富士市

磯野 昭仁

門閉ざし中陰の札竹の秋

兵庫県神戸市

岸下 庄二

若草や心やさしき四姉妹

養老郡養老町

田中 紫香

囀りや天から地から梢から

三重県四日市市

後藤 允孝

留年も良し風のまま花筏

不破郡垂井町

小坂 久美子

爪の赤ピアスの真珠草取女

三重県鈴鹿市

ドラム缶王

切れ目なく桜咲きたる輪中堤

養老郡養老町

松永 智志

春暁や鶏舎に響く一の声

大垣市

森 茂寿

一夜にて花絵巻なる春の雨

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

かたつむり立て替えの件きり出せず

大阪府箕面市

露口 全速

選者吟

鉛筆の木屑の匂ふ薄暑かな

永山

一般の部

